
家族けーかく無計画

《》

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家族けーかく無計画

【Nコード】

N0472BA

【作者名】

《》

【あらすじ】

とあるカフェ店を経営してる一家の妹6人＋兄が天宮町で、計画を作ったり作らなかったりしながら、奇想天外を織りなすハートフルコメディ

第0計画 倉木一家のプロローグ（前書き）

処女作なので、皆様の期待に添えられるかわかりませんが、頑張りますので宜しくお願いします。

第0計画 倉木一家のプロローグ

俺は十二歳の頃、乾パンを持たされて、あまみやちょう天宮町に棄てられた。

正直悲しかった。

そしてつらかった。

すると、そんな俺を拾ってくれた男女の大人二人が居た。

それから俺は、くろぎ倉木家の一員となった。

しかも聞けばその二人は俺の他に、あと6人の子供達を育てているではないか。

そいつらは、全員年下の妹達らしく、俺が倉木家の長男となった。

そして今では、十年の時間が経った。つまり俺は二十二歳。妹達もしっかりと成長し、個性が出始めた。

高一の十六歳の葵。

中二の十三歳で双子の桜、すみれ堇。

小四の九歳で三つ子の、椿、楓、華。

そんな7人の妹をもつ俺の名前は、零^{れい}。

彼女はいません。いたってそこら辺のお兄さんです。

そんなわけで俺はいつものように、妹達の一騒動に我が家が経営する倉木カフェ店が巻き込まれていくわけです。

ま、楽しいから良いんだけどね。

え？ 別にMってわけじゃないからね。

第1計画 倉木一家の倒産危機

「赤字だ……」

どうも……倉木零です。いきなり、シリアスな展開ですみません。あらすじに『ハートフルコメディ』なんて、書いてありますがすみません。ぶっちゃけ、今ヤバい状況です。

それを今、葵と一緒に我が家の畳が床の計画室で話し合っています。因みに、双子と三つ子はもう夜遅いので居眠り中。両親は出稼ぎで、帰って来ません。

「お兄^{にい}、ほんとにどうするの。このままだと、倉木カフェ店が倒産しちゃうよ」

机の向かい側に座っている俺の妹で長女の葵が机を叩いてそう言った。

身長159cm。肩と腰の中間ぐらいまで伸びた、サラサラして赤みがかった茶髪が特長のペタンコでスレンダーだけど美少女だ。

確かに葵の言うとおり、我が家のカフェ店は倒産しかけていた。今はそのことについて話し合っている。

「それもこれも、全部お兄の所為だよ」

「俺かよ!？」

「当たり前じゃん。先月、訳あつての休みのとき、お兄が店の前にとんでもない貼り紙を貼ったじゃない」

あれ？ 確かにそういうことはやったけど、紙に何て書いたわけ？ 正直、覚えてない。

「はあ、呆れた。本当に覚えてないのね」

「すまん。俺なんて書いたわけ？」

「『今日1日サボります』よ！ 普通『今日1日休みます』でしょ!？ 事実にしてもせめて、マシな嘘つけばカフェ店の評価は下がらなかったでしょうに」

ああ、そんなこと書いた覚えあつたわ。そのおかげで評価がた落ちしたんだよな。なるほど、これが原因か。

でも、どうしよう。これでは本当に、『ハートフルコメディ』が『ハードフルコメディ』になりかねん。

葵は呆れ果てながら、自慢のサラサラ髪をたなびかせると、また口を開いた。

「ともかく明日ら私たち夏休みだから、その間に巻き返すわよ。はい、お兄提案」

なにその面白いことを言ってみたいな無茶ぶりは！？　まあ、提案はないことはないんだけど……

「評価上げるには、店員の愛想や服装が大切だ」

「やる気を客に見せて、私たちの評価を上げるわけね。それでその方法は？」

「まずは、服装からだな。なるべく人が喜んだり、和んだりする他の店にない俺たち独特の服装をしようと思う」

「だったら、メイド服とかアウトなわけ？」

メイド服……妹達のメイド服……

「聞こえてるわよ、変態兄貴」

「すまんすまん。とりあえずメイド服はアウトだ。ありきたりでオリジナリティに欠けるからな」

「だったら何を着るのよ」

「スク水」

「天誅^{バキッ}!!」

「ぐほ!? いきなり竹刀で人の頭を叩くんじゃねえ!! てかな
ぜポケットから竹刀が出てくる。ドラえもんかよ!?」

「黙れ!《バコ》変態!《ドカツ》魔神! 人間の屑!《ガツン》
そんなことしたら警察が来てしまうわ!!」

「酷い。四回も竹刀で殴った!? 親父にだって二度も殴られたこ
と《バキ》グハツ」

「死んでしまえ」

……さすが俺の妹。相手がなんと言おうとも容赦ない一撃をたた
み込む。

「分かった。悪かったから服装^{ドカツ}より新しい提案をし《ドコッ》よう。
だから《バキ》殴るのを止めよう」

そう言うつと、葵が竹刀で殴るのをようやく止めた。頭の上から鉄
の臭いがするのは気のせいだと思う。

葵start

私はバカ兄貴の頭をコテンパンにした。

これでもお兄は大学に通ってたから、頭は悪くならないと思う。
頭から赤い液体が流れ出るけど、気にしないのが一番だ。

でも、お兄の提案か。またろくでもないことだと思う。あまり信用できない。

「紙芝居でもしょうか」

「ハア！ 子供ぼくってやってられないわよ」

「俺達のカフェは子供大人関係なく来るんだぞ。それに子供ぼいつから否定てのは、お前のわがままじゃないか」

「うっ……」

確かにお兄の言うことは正論だった。私たちが今立ててる計画は、飽くまで客の為であって、私のわがまままで動いてるんじゃない。…まあ、どちらにしろお兄のスクール水着は私に限らずみんな断固否定するけど。

「で、その紙芝居はオリジナルにするの」

「勿論」

うつ……、お兄のオリジナル紙芝居なんて不安。下手すれば、教育上よろしくないお話に仕上がるかも。

お兄少し考えると、髪とペンを持ち出してきて、スラスラ書き始め、ペンを止めた。

「できたの？」

「バツチリ、タイタニックに乗ったつもりで任せとけ」

「沈むじゃん」

「じゃあ、読むよ」

なんか嫌な予感かしない。バカ兄貴が書くお話なんて……

「昔昔ある所におっさんとババアが居ました」

「うん、王道な始まり方だけど、キャラは丁寧に扱おうね」

「おば様は川へ洗濯に、おじ様は山へ芝刈りにいきました」

「そこまで丁寧な扱えと言っていないから」

ていうか、聞いたことあるような……やっぱり嫌な予感が……

「おばあさんが川で洗濯物をしていると、ドンブラコドンブラコと、大きな桃が流れてきました」

「盗作は駄目よ」

「まあまあちゃんと、オリジナルだから、タイタニックに乗ったつもりで任せとけ」

「だから沈むってば！」

「おばあさんは大きな桃を近づいてよく見てみると、桃にハエがたかっていました」

「腐ってる！？ その桃腐ってる！？」

「おばあさんは桃を家持ち帰り、おじいさんと一緒に食べようと思いました。しかしいくら待っても帰って来ません」

「持ち帰った！？」

あれ、でも新しい展開だな。

「嫌な腐敗臭におばあさんは顔を歪めます」

「気づいてるの！？ なぜ捨てなかった！！」

「おばあさんは『なぜ臭いんじゃない』と顔をしかめます」

「まさかの気づいてない!？」

「おじいさんがいつまで経っても帰って来ないので、おばあさんはシメシメと一人で桃を食べるため、いつもと同じように『斬月』で滅多斬りにしました」

「どこから持ち出した斬魂刀!?　って桃潰れるわ」

「その前に家ごと吹き飛びました」

「桃たろっー!？」

「しかし、舞った土煙に一つの影が!？」

まさか……

「そこには芝刈りに行つてたおじいさんが、桃から出てきてズタボロのまま立って居たのです」

「おじさーん!!　芝刈りに行つてたのに、なぜ桃に入って川から流れて来たんだ!？」

「するとおばいさんは『ちっ、しとめ損ねたか』と刀を向けた」

「おじいさん桃に入つたの知つてたの!?　酷いよおばあさん!!」

「するとおじいさんが『ふん、アブねえババアだ。しかしこの程度じゃこの俺、ホームクルスは倒せねえ』と言うと、体の傷がみるみるうちに治りました」

「まさかのおじいさんホムンクルス!？」

「するとそれを見ていた観客が盛り上がりました」

「いつの間に観客!？」

「すると審判は『どちらともチートです』といい、司会は『そうですねえ』と受け答えました」

「本格的な試合になってる!」

「おじいさんはメタルギアを呼び、おばあさんはエヴァを呼びました」

「すごい!？」

「司会は『メールが来ました』とメールを読み始めました」

「メール!？ 生放送なのこの試合!？」

「『ペンネームは、ピーチタロウさんです』」

「そこにいたか桃たろう!？」

「『全略と書いてあります』」

「しかもダイナミック!」

「そんなことしているうちに、勝負がつきました。しかし、審判は

「まともに試合を見てないので」

「審判すらまともじゃない！」

「審判は顔をしかめつかせ、『カカロットー！ー！』と叫びました」

「審判いきなりどうした！？」

と、そんなこんなでお兄の摩訶不思議な桃太郎？が終了した。

「どうだ！俺の力作は！！」

「死ね《バギ》」

「ガハア」

お兄は限界がきたのか、そのまま倒れた。
うん、明日になったら無事だろう。

それより、どうしようか。評価を上げる方法が思い浮かばない。
このまま私たちは、明日を迎えることになった。

本当に大丈夫かな？

第1計画 倉木一家の倒産危機（後書き）

次回妹達を全員登場させます。

もう少しで2012年ですね。次回も宜しくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0472ba/>

家族けーかく無計画

2011年12月31日23時45分発行